

ニライみらい

2026年(令和8年) 1月号 454号



謹賀新年



第1分科会



第2分科会



第4分科会



第3分科会



第5分科会

〈写真は第35回経営研究フォーラムの各分科会より〉

同友会ってどういう会？



入会申込フォーム



魅力動画



行事案内



Facebook

〒901-0152

沖縄県那覇市字小禄1831番地1 沖縄産業支援センター603号

☎098-859-6205(代) FAX.098-859-6208

<http://www.okinawa.doyu.jp>

E-mail: doyu@okinawa.doyu.jp

代表理事年頭挨拶

仲間を増やすことで 平和で豊かな国に！

代表理事 座間味 亮



一般社団法人沖縄県中小企業家同友会会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。日頃から同友会活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

昨年は「新たなステージ」で、沖縄同友会も一般社団法人化になり、30年ぶりに新支部サンライズを設立致しました。また、

中同協が労使見解を発表してから50年目になります。私自身沖縄同友会代表理事2年目ですが、改めて同友会理念三つの目的「よい会社・よい経営者・よい経営環境」「自主・民主・連帯」「国民と地域と共に歩む中小企業」が、良い国を作る事だと実感しております。それゆえに世界中では紛争が収まらない、悲しい現状で御座います。日本も巻き込まれないように、国政に平和を提言していきたいと思えます。

日本経済を含め隣国との友好関係や、物価高、人手不足等、世の中の変化のスピードに付いていくのに必死ですが、如何なる環境下においても、同友会理念である「よい経営」の実践を我々中小企業家には今こそ求められています。50年以上前に同友会の先輩方々が、激しい議論を重ね作り上げた労使見解、人を活かす経営を学び直し、総合実践が必要です。そして学びを広めていく事ですばらしい国になります、そのためには仲間を増やしましょう。労使見解を学ぶ仲間を増やすことで平和で豊かな国になるのです。そのためには会員のいない空白地域で、仲間づくり活動を続けて行きたいと思えますので、引続き皆様のご協力をお願い致します。

新たなステージで人を生かす 経営の総合実践を！

～志を高く持ち、実践は足元から～

代表理事 宮城 光秀



皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。私達は今年度、表題のスローガンで活動を展開しています。沖縄同友会にとって新たなステージとは、昨年4月に法人化して一般社団法人となり、5月に約30年ぶりとなる新支部「サンライズ支部」を設立したこと等です。会内外からの同友会への

期待は日を追うごとに高まってきています。その期待に応えることができるよう、例会やフォーラムで学びを深めると共に、各支部・部会・専門委員会の活動により、人を生かす経営の総合実践を推進しています。

人を生かす経営を実践するために最も有効なことは、企業変革支援プログラムで自社の現状を把握し、社員と共に経営指針を実践することです。しかし、たとえ取り組みが不十分でも慌てないでください。～志を高く持ち、実践は足元から～です。今年も一步一步着実に前進していきましょう。

戦後80年を経た今年は、「中小企業は平和な社会でのみ繁栄を続けることができる」という理念に立脚し、戦前・戦中・戦後の沖縄について学ぶ同友会大学・大学院を2月に開講します。また、第7次ビジョンの最終年度にあたるため、新たに10年ビジョンと第8次中期計画（5年）を策定します。さらに、会員のいない空白地域をなくすため、伊江島などの離島に新支部を設立することも検討しています。

本年も、よい会社・よい経営者・よい経営環境をめざして邁進しましょう。

茶論

営業成績で行き詰っている若手社員が相談にきた。彼なりに努力はしているが成果がでない。対話して最も気にかかったのがタイパ（時間効率）・コスパ（費用対効果）重視の行動であった▼世界有数のIT企業が米国で急成長を遂げた要因は、自社製品をアピールするのではなく「何かお困りのことはありませんか？」と顧客の悩みを聞いたことと彼に伝えた。そして客自身の気付いていない潜在的なニーズを見つけ出し、その解決策として製品を提案し成約につながった▼「思いやり」「愛情」「思いを届ける」といった“非効率”と思える行動に、会社の発展や社員成長の鍵があると思う。そして、グイックレスポンス“素早い反応とスピード感溢れる動きも大事”▼今年は午年である。動物の馬に例えられる年は速さや力強さから、豊作や健康・発展の象徴とされている。昨年同様、国内外の情勢は依然混沌としているが、我々同友会会員は白馬のごとく堂々と走り抜きたい▼因みに筆者の同級生の干支は馬である。確かに男女共に情熱的で勇ましい人が目立つ。早生まれで未年の筆者は、羊のように温和に愛情深く進む一年にしたい。（仲地 治）

九州各県同友会とも連携して九州・沖縄ブロックから、全国に元気を発信できるよう今年一年動いて参ります。沖縄同友会の会員の皆さん、共に同友会運動を推進して参りましょう。

沖縄県中小企業家同友会の会員の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年七月の全国総会で、中同協の副会長を拝命し、九州沖縄ブロックの担当をさせていただいています。九州各県の同友会運動推進を支援する立場だと認識して、緊張感をもち、取り組んで参ります。中小企業家同友会の発展は、その地域の発展につながると確信しています。同友会型企業（労使見解を基に経営指針を実践する経営）を増やすことが仕事づくり、雇用づくり、そして地域づくりになると思います。



中小企業家同友会
全国協議会副会長に
就任して

中同協副会長
喜納 朝勝

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、当支部の活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本年は、地域の活力をより高め、会員の皆さまのお役に立てる支部づくりを一層進めてまいります。

社会情勢の変化は大きいですが、だからこそ「つながり」と「支え合い」を大切にしながら、明るく前向きに歩んでいきたいと考えております。

皆さまとともに、新しい年を希望ある一年にしていければ幸いです。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



「つながり」と
「支え合い」を
大切に

北部支部長
高木 朋子

新年あけましておめでとうございます。

いつも（一社）沖縄県中小企業家同友会中部支部の活動にご参加・ご協力いただき、心から感謝申し上げます。

午年の今年は「前へ踏み出す」「スピード感」の年と言われます。物価高や人手不足など課題も多いですが、だからこそ一人で抱え込まず、同友会の仲間同士で学び合ひ・語り合ひ・支え合ひながら、一歩ずつ前進していきたいと思ひます。

私自身もリサイクル事業を通じて、地域に必要とされる会社づくりに挑戦してまいります。

本年も中部支部らしく、明るく前向きにご一緒できれば幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。

新年あけましておめでとうございます。

いつも（一社）沖縄県中小企業家同友会中部支部の活動にご参加・ご協力いただき、心から感謝申し上げます。

午年の今年は「前へ踏み出す」「スピード感」の年と言われます。物価高や人手不足など課題も多いですが、だからこそ一人で抱え込まず、同友会の仲間同士で学び合ひ・語り合ひ・支え合ひながら、一歩ずつ前進していきたいと思ひます。

私自身もリサイクル事業を通じて、地域に必要とされる会社づくりに挑戦してまいります。

本年も中部支部らしく、明るく前向きにご一緒できれば幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。



地域に
必要とされる
企業に挑戦！

中部支部支部長
玉城 栄

二〇二六年 明けましておめでとうございます。

世話になりました。

沖縄県中小企業家同友会の皆様のお力でサンライズ新支部を発足いただきありがとうございます。

昨今は、変化の激しい大激動の世の中ですが、未来に光を！希望を！夢を！持ち続け、地域の仲間達と『よい会社づくり』、『よい経営者づくり』、『よい経営環境づくり』を通して地域社会、みんなの幸せづくりに貢献できるように歩み続けてまいります。

今後ともサンライズ支部一同宜しくお願いいたします。

みんなに『幸』あれ〜
♡(AOA)♡

二〇二六年 明けましておめでとうございます。

世話になりました。

沖縄県中小企業家同友会の皆様のお力でサンライズ新支部を発足いただきありがとうございます。

昨今は、変化の激しい大激動の世の中ですが、未来に光を！希望を！夢を！持ち続け、地域の仲間達と『よい会社づくり』、『よい経営者づくり』、『よい経営環境づくり』を通して地域社会、みんなの幸せづくりに貢献できるように歩み続けてまいります。

今後ともサンライズ支部一同宜しくお願いいたします。

みんなに『幸』あれ〜
♡(AOA)♡



地域社会、
みんなの
幸せづくりに
貢献！

サンライズ支部長
具志 直人

新年明けましておめでとうございます。

昨年は浦添でだこ支部の活動に皆様が注いでくださった情熱と行動に心より敬意を表します。

今年は、私達中小企業にとってまさに「攻めの一年」。変化の波を待つのではなく、良い波を自ら創りだし未来を切り開く一年にしたいです。

本年午年は、「挑戦と実践」を合言葉に、経営指針の深い実践、仲間同士の強い連携、新たな事業機会の創出に支部全体で取り組んでまいります。

一人では難しいことも仲間となら必ず突破出来ます。共に燃え、ともに成長し、地域を力強く牽引する一年にしていきたいと思います。

本年も浦添でだこ支部をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

昨年は浦添でだこ支部の活動に皆様が注いでくださった情熱と行動に心より敬意を表します。

今年は、私達中小企業にとってまさに「攻めの一年」。変化の波を待つのではなく、良い波を自ら創りだし未来を切り開く一年にしたいです。

本年午年は、「挑戦と実践」を合言葉に、経営指針の深い実践、仲間同士の強い連携、新たな事業機会の創出に支部全体で取り組んでまいります。

一人では難しいことも仲間となら必ず突破出来ます。共に燃え、ともに成長し、地域を力強く牽引する一年にしていきたいと思います。

本年も浦添でだこ支部をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



「挑戦と実践」を
合言葉に！

浦添でだこ支部長
田場 英行

那覇支部の
スローガン2025
地域に
パワーチームとどんどん Ver.2を
バージョンアップして、
地域に元気を与え！
心が踊るワクワク経営を
実践する！
那覇支部長
武島 多加雄



同友会の目的「良い会社・良い
経営者・良い経営環境づくり」を
目指し続けます！

また、多様な業種の仲間が集い、
互いの経験や知恵を持ち寄りなが
ら、学びと交流を深める場づくりに
努めてまいります。

特にこの激動する社会情勢の
中、中小企業の果たすべき役割は
ますます重要になっています。だ
からこそ、経営の原点に立ち返り、
「人を生かす経営」の実践を通じ
て、地域経済の活性化に寄与して
まいりたいと考えております。

会員の皆様と共に学び合い、高
め合い、そして那覇という地域を
より魅力ある場所にしていくため
に、支部としてもさらなる挑戦と
成長を目指してまいります。

引き続き、皆様のご指導・ご鞭
撻のほど、よろしくお願い申し上
げます。

一気に駆け抜け、
力強く実りを
育む
南部支部長
竹 富久



新年明けましておめでとうござ
います。旧年中は南部支部の活動
にご協力いただき感謝申し上げます。

引き続き南部支部は、例会や学
習会等を開催して共に学び・成長
し続けることで地域に共に歩む中
小企業集団を増やしています。

また、行政や銀行との意見交換
を重ねて中小企業の切実な声を届
け、連携を築くことができました。
バスツアーや懇親会を通して親睦
を深め経営者が本音で語れる環境
を今後も続けていきます。

二〇二六年は午年であります。
新生南部支部は競走馬のように一
気に駆け抜けると同時に、農耕馬
のように力強く実りを育む年にし
てまいりますので、本年もどうぞ
よろしくお願いいたします。

宮古島の
未来をつくる
一年に！
宮古支部長
友利 博明



本年度は掲げた活動方針のひと
つである「組織の強化と活性化を図
る同友会づくり」を重点に取り組ん
でまいります。特に仲間づくりにつ
いては、学びは仲間が多いほど深
まり、互いの実践事例が刺激とな
り、成長の循環が生まれると考えて
います。例会・学習会・交流事業
を一層磨き上げ、参加したくなる・
参加して良かったと思える支部づ
くりを進めます。同時に、昨年度施
行された宮古島市中小企業振興基
本条例を、支部としてどのように活
用するのか、より現実的で建設的な
議論を始める一年といたします。行
政や地域との対話の可能性を探り、
私たち中小企業の声を地域の未来
に生かしていく足がかりとします。
共に学び、共に成長し、仲間とと
もに宮古島の未来をつくる一年へ。
本年もどうぞよろしくお願い申し
上げます。

より学ぶ
行事を
積極的に企画！
八重山支部長
喜納 正雄



八重山支部は新体制となり初の
新年となります。

昨年は「仲間作りと学びで経営
の質向上を！」の方針のもと八重
山らしく雰囲気な大事にした活動
を展開し、青森県上十三支部と姉
妹支部提携するなど充実した一年
となりました。

二〇二六年は会員同士の繋がり
をさらに深め、よりよい学びを得
られるような行事を積極的に企画
していきます。

具体的には二月に宮古支部との
合同例会、六月に石垣島でちゃん
ぷる例会、八月に青森での例会
を予定しています。

そのほか全国離島支部との交流
についての動きも加速させます。
引き続き存在感あふれる支部を
目指して活動してまいりますので、
よろしくお願い致します。

地域の
‘希望の拠点’と
なる！
碧の会部長
澤岬 千秋



二〇二六年度は、碧の会の誕生
の原点である・みんなで輝く女性
経営者になろう・という想いを軸
に、女性活躍が進む団体・とし
ての歩みを進めてまいります。女
性らしいしなやかさと温かさを大
切にしなが、仲間が安心して語
り合い、成長し合える場づくりに
力を尽くします。

また、一人ひとりが自分らしく
輝けるよう、学びや挑戦の機会を
広げ、互いに支え合う風土をさら
に深め、碧の会が地域の“希望の
拠点”となるよう努めてまいり
ます。

私自身も、日々の仕事に丁寧さ
を忘れず、挑戦する心を育てなが
ら、経営者として、そして女性部
長としての役割をしっかりと果た
していきます。本年もどうぞよろ
しくお願いいたします。

新年明けましておめでとうございます。
私たちは青年経営者部会『うりずん』は、今、変革の時だと感じています。
私ことながら、県外の同友会会員との交流を経て、同友会の学び方に対して大変刺激を受けました。それを少しでも皆さんに感じてほしいと青年経営者全国交流会への参加を呼びかけて二年。今では二十名弱がうりずんから参加するようにになりました。
参加することに意義があったフェーズから、それをどう実践していくかに移ってきたタイミングだと感じています。
これからは、「青年経営者はまずうりずんに入ろう」と思われるような「学びと実践」を部会内で深めていきたいと思っています。



「参加する」から「どう実践するか」!
うりずん部長
倉岡 弁慶

新年明けましておめでとうございます。
ビジネス連携部会では、今年も「共創による新たな価値創造を」をテーマに活動を進めていきます。業種や世代の垣根を越えたピッチイベント「ゆいびつち」をはじめ、交流会や事例共有の場を増やし、気軽に相談し合える関係づくりを大切にしたいと思っています。また、会員同士のコラボ企画や地域課題と一緒に解決するプロジェクトなど、実践的な連携にも力を入れていきます。
一人ではできないことも、仲間とならきつと形にできる。笑顔で学び合い、支え合える一年にしていきましょう。



共創による新たな価値創造を!
ゆいま〜る部長
波平 恵太

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年は、会員の皆様のご協力により、一般社団法人になり同友会活動を着実に進めることができました。心より感謝申し上げます。
本年は、総務委員会は事務局と連携し支部活動、委員会活動、部会活動の組織運営を議論し、透明性を持った財政の健全な安定化を目指します。特に事務局は、同友会の運営を支える中核機能として会員サポート、経営者の学びと地域経済の発展を支える専門的な総合職として、企画・調整・広報・政策提言まで幅広くサポートしていく事務局に成長できるよう努力します。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。皆様のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。



専門的な総合職としての事務局を!
総務委員長
高原 勝也

新年あけましておめでとうございます。
本年度、政策委員会は「中小企業家が主役となる地域づくり」を軸に、政策と実効の連携を図りながら、活力ある地域社会の実現を目指します。私たちが取り組む地域づくりとは、中小・小規模事業者や個人事業主が安心して挑戦できる「よい経営環境づくり」を整える活動です。
「中小企業魅力発信月間」や景況調査を基にした「政策・要望提言」、「他団体との連携促進」などを推進し、支部・部会・委員会との協働で実効性の高い施策に取り組んでまいります。
中小企業の発展が地域の未来をつくります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



中小企業家が主役となる地域づくりを!
政策委員長
仲間 高乃

新年あけましておめでとうございます。
月刊広報誌「ニライみらい」を発行し、一〇〇〇社を超える沖縄同友会会員の学びと活動および地域との連携や取り組みをお伝えしています。昨年の法人化に伴い親しまれたタブロイド判からA4版冊子に変更し、より一層分かりやすく親しみやすい紙面構成になり、同友会HPやSNS発信の充実も進めています。
今年も魅力ある企業づくり・地域づくりを発信し、一緒に活動する企業経営者・個人経営者の皆様の参加をお待ちしています。



魅力ある企業・地域づくりを発信!
広報委員長
江口 直美



学びが 行動につながる 例会を！

例会づくり委員長
普天間 直樹



二〇二六年度は「学びが行動につながる例会づくり」を全力で進めたいと思います。経営者同士が本音で語り合い、自社課題に向き合い、互いの実践に刺激を受け、明日からの経営に活かせる気づきと勇気を持ち帰る。そんな例会を一つでも多く生み出すことが今年の目標です。

また、各支部・部会・委員会の会員が主体的に参画し、自らの成長と企業発展につながる体験を得られるよう、ブレ例会などのさらなる充実を支援します。

変化の激しい時代だからこそ、「自主・民主・連帯」の精神のもと、仲間と学び合い、実践し、成果を分かち合える同友会を実現し、地域経済の活性化に貢献してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

全会員 アンケートに ご協力を！

経営委員長
比嘉 良太



新年あけましておめでとうございます。

経営委員会では、沖縄県中小企業家同友会・中長期ビジョンに向かって、経営者が学べる・実践できるように本年も企画運営していきます。

全会員対象のアンケートを集計し、学習会の企画運営に活用したいので、回答のご協力をお願いします。

- ①経営指針の成文化と実践
- ②企業変革支援プログラム
- ③全会員へのアンケート実施

本年度も会員企業の発展に寄与できるように邁進しますので、経営委員会の活動にご協力ください。

「学ぶこと・ 働くこと・ 生きること」とは

共同求人委員長
玉城 真由美



新年あけましておめでとうございます。

共同求人委員活動は、中小企業が地域に根差し、未来を担う若者と共に成長していくための取り組みです。私たちは、若者が働く喜びを実感できる企業づくりを進めると同時に、「学ぶこと・働くこと・生きること」の本質を、学生や保護者、教育機関の皆さまと共に考え続けてまいりました。

本年度は共に活動していく会員企業を増やしていくことにも力を入れていきたいと考えています。



共に育ち、 共に生きる！

社員教育委員長
大田 守章



健やかに新春をお迎えのことと心より喜び申し上げます。

旧年中は今期のテーマ「人を生かすチームづくり」に沿った講師陣による社長・社員共育塾を開講することができました。又、合同入社式・新入社員研修会を無事終えることができ、新人フォローアップ研修会を開講しました。ひとえに会員の皆様のご理解と協力に支えられ運営することができました。大変感謝しております。

本年も「共に育ち、共に生きる」精神を大切にしながら社員の成長、会社の成長を全力でサポートしていきます。

皆さまにとって、この一年が飛躍と充実の年となりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「学び」で 人間力を 高め続ける

同友会大学運営委員長
下田 美智代



新年あけましておめでとうございます。

同友会大学は、三十五年の歴史の中で多くの卒業生を輩出し、経営者の学びの場として歩みを重ねてまいりました。

経営環境は年々厳しさを増し、不確実性の高い時代に入っています。だからこそ今、求められているのは人間力を高め続ける姿勢であり、その根幹にあるのが「学ぶ」ことだと考えます。学びによって培われる知力は、数字では測れない大切な財産です。

今年度も同友会大学では、より優れた講師陣による多様な学びの機会を提供し、同友会会員の資質向上の一翼を担う存在を目指してまいります。本年も共に学び、成長する一年にしていきましょう。

新年あけましておめでとございます。
同友会では「障がい者雇用」多様性の受入を単なる社会的責任としてではなく企業の成長エンジンと捉え、多様な才能が輝く未来を目指しています。さらに「人を活かす経営」を軸に障がい者雇用を核とした多様な人材の能力を最大限に引き出し、新たな革新へ導きます。

二〇二六年を「共生」の年とし、誰もが能力を発揮し、革新を生み出す企業文化を確立しこの活動を通じて地域社会、持続可能な未来社会を牽引してまいります。

本年も委員会活動へのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



多様な才能が
輝く未来を！

健障者委員長
仲本 和美

新春講演

沖縄から日本の未来をつくる ジャングリア沖縄の挑戦！

～ 開業から半年を経て見えてきた課題と未来 ～

新春の
つどい
2026

2026
1/28(水)
17:00～20:30

講師
佐藤 大介 氏

株式会社 ジャパンエンターテインメント/取締役副社長・事業開発本部長
株式会社 刀/エグゼクティブ・ディレクター プランニング&オペレーション

1999年三井物産入社後、人事部や交通プロジェクト部、ニューヨーク駐在を経て、2004年に星野リゾートへ転職。青森の温泉旅館（現：星野リゾート青森屋・奥入瀬渓流ホテル）の再生を主導し短期間でV字回復を達成。2010年から星野リゾート トマムの責任者としてプロダクト改革やインバウンド強化を推進し、北海道を代表するリゾートへ成長させる。2015年取締役就任後、マーケティングや海外運営を統括。株式会社刀の代表 森岡毅の志と刀の組織風土に強く共感し2019年より刀の一員に加わる。㈱ジャパンエンターテインメントにおいて JUNGLIA OKINAWA の開業に向けて地元地域や自治体パートナー企業、教育機関らとの連携を推進。

「地域と共に未来を創る」—— 開業から半年。
ジャングリアが語る“観光立国”への道は、沖縄
観光の可能性を語る感動の講演会となります。
是非、お越しください！

参加申込方法

WEB フォームか参加申込書にて
お申し込みください。

申込締切

1/21
(水)

WEB参加申込

下記のQRコードからアクセスして申込者情報をご入力ください。

会員専用



<e.doyu QR>

ゲスト専用



<event QR>

会場 パシフィックホテル沖縄 2F

沖縄県那覇市西 3-6-1 TEL 098-868-5162

内容 第1部 「新春講演会」

17:00～18:30

第2部 「賀詞交換会・懇親会」

19:00～20:30

参加費 講演会のみ 1,000円
懇親会まで 8,000円

同友会会員・社員の場合は、原則会費口座より自動振替。ゲストの方は現金のほか
オンライン決済（クレジットカード・コンビニ払い・ペイジー）がご利用いただけます。
※ 1/22（木）以降のキャンセルは、全額をご負担いただくことになります。



謹賀新年

「中小企業と共に歩む」金融機関より新年のご挨拶

沖縄同友会は、2016年の海邦銀行を始めに、琉球銀行、沖縄銀行、コザ信用金庫の各金融機関と包括連携協定を結んでいます。これまで定期的な打ち合わせを持ち、銀行員の例会参加や講師依頼、広報誌「ニライみらい」への寄稿など具体的な取り組みを進めてきました。

今後も各金融機関の強みを生かし、更なる経営環境の改善に繋がる取り組みにしていきます。



琉球銀行

株式会社 琉球銀行

代表取締役頭取

島袋 健

すべては沖縄のために

謹んで、新年のお慶びを申し上げます。

旧年中はりゅうぎんグループに對しまして、格別のお引き立て、ご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。当行は昨年四月に中期経営計画「Empower2025」をスタートさせました。本計画は「すべては沖縄のために」をテーマに、沖縄の発展に当行が貢献することでともに成長する好循環サイクルを目指す内容になっております。

また、来る四月からは新本ビルでの営業を開始致します。本年は決意を新たに、経営理念である「地域から親しまれ、信頼され、地域社会の発展寄与する銀行」として地域の皆様の多様なニーズにりゅうぎんグループ総合力をもつて応えていく所存でございます。結びになりますのが新年を迎えるにあたり、皆様の今後益々のご多幸を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



沖縄銀行

株式会社 沖縄銀行

代表取締役頭取

山城 正保

あらゆるお客様の課題解決に

あけましておめでとうございます。旧年中は、おきなわフィナンシャルグループ・沖縄銀行に格別なご愛顧、お引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

沖縄県の経済は観光関連産業を中心に成長を続けており、「GW 2050 PROJECTS」における那覇空港の機能拡張や、沖縄の基地返還跡地の開発など、沖縄県は長期的にも非常に高いポテンシャルを秘めていると考えております。産官学金が一体となったプロジェクトの進捗に向けて、当社グループも積極的に参画しております。

このような環境の下、おきなわフィナンシャルグループは金融をコアとする総合サービスグループとして、あらゆるお客さまの課題解決に向けたワンストップのコンサルティング支援に継続的に取り組んでまいります。



海邦銀行

株式会社 沖縄海邦銀行

代表取締役頭取

新垣 一史

お客様の役に立てる

一番身近な銀行

明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、健康やかな新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は沖縄海邦銀行に格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。沖縄の地域経済は観光、医療・福祉、卸売り、建設、サービスなど幅広い産業が相互に支えあって成り立っています。その中心にいるのが地域に根差し、雇用を守り、価値を生み出している中小企業の皆さまであります。

皆さまひとり一人の活躍が沖縄の地域経済を支え、次の時代をつくる原動力となることを心より期待しております。今後とも皆さまの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、新年を迎えるにあたり、皆さまの益々のご多幸とご繁栄を心よりお祈りし、新年のご挨拶と致します。



コザ信用金庫

コザ信用金庫

理事長 喜友名 勇

Face to Faceで

「地元とともに」

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい新年を迎えましたが、中小企業経営者の皆さまにおかれましては、人手不足、物価高、賃上げ、金利上昇等、さまざまな経営課題に直面されていることと拝察致します。

今、地域金融機関には「地域金融力の強化」が求められています。地域経済の持続的な発展のため、地域企業の価値向上や地域課題の解決に向けて地域金融機関が貢献することが期待されています。コザ信用金庫もFace to Faceで「地元とともに」をモットーに、沖縄県中小企業家同友会の皆さまとの連携を一層深めて参ります。事業承継、事業再生、DX支援等皆さまと一緒に課題解決していきます。本年もよろしくお願い致します。



第35回経営研究フォーラム

基調講演

人間尊重の経営を根幹に据えて！
社員の自主性を伸ばす仕組みづくり組織づくり



講師の田中 勉氏

十一月二十六日、沖縄産業支援センターにて、第三十五回経営研究フォーラムが開催され、二百五十六名が参加しました。

第一部の基調講演は、講師に㈱エイチ・エス・エー 社長 田中勉氏（神奈川同友会代表理事）を迎え、「人間尊重の経営を根幹に据えて！社員の自主性を伸ばす仕組みづくり組織づくり」をテーマに講演いただきました。

田中氏は、尊敬する父親に従い、良い学校に入り、大企業に就職し、二十五歳で結婚して子どもを二人持つという典型的なパターンに沿って生きてきました。そして、二十三歳で電通系の設備管理会社に入社し、その後、大手企業の設備管理会社に移ります。

しかし、ある時点で後輩から「これっていつまで続くんですか？」と質問されたことをきっかけに、「生きるとは、働くとは」について考え始めました。その結果、社会学を学び始め、社会の成り立ちや歴史について理解を深めるようになった。

ります。これが田中氏の人生観を変え、「一人一人の成長が社会の成長につながる」という信念を持つようになりました。

田中氏は、会社員時代に全国を転々としていた経験から、地域密着型の企業を作ることを決意。事業内容を選ぶ際には、誰かの役に立つことを基準に考え、最終的に医療保険を使った在宅マツサージサービスを選びました。この選択の理由として、サービスを受ける顧客が喜ぶ姿を直接見られることを挙げています。資本金の準備はなかったものの、経営の基本として「人間尊重」を掲げ、人間らしく生きることを大切にしました。

田中氏は「会社は社会の道具」という考えのもと、会社の憲法とも言える理念を作ります。理念は「地域の人たちに必要とされる会社であること」「地域の人たちが働きたくなる会社であること」「人間の成長ができる会社であること」の三点に集約されています。そして、この理念には前文があり、組織の目的や人間尊重、共同共生についての思いが込められています。

また、「社会学校」として従業員の成長を支援する仕組みを整え、新入社員研修では必ず会社の理念を伝え、全社員も年に一回は参加します。会社の目標として「協力する力をつける」ことを掲げ、

仕事だけでなく地域社会でも協力できる人材を育てることを目指しています。

会社の運営においては、情報公開、合議制、選択制民主主義などの独自の制度を導入しています。特に注目すべきは「選択制民主主義制度」です。これは、毎年六月に全社員が、自己成長の目標や給与、職場環境についての希望を記入して「働き方提案書」を作成します。この提案に基づき、経営方針や事業計画、就業規則などを全員で検討し決定します。また、社員が自分の働き方や給与体系を選択できるシステムとなっており、会社の財務情報を含むほぼすべての情報を従業員に公開し、意思決定プロセスを透明化しています。

さらにキャリアパスとして、責任者や管理者になるための明確な基準を設け、誰でもチャレンジできる仕組みがあります。

当初の事業計画では「総合福祉事業」を提案し、提供する価値を明確にし、市場規模や目的性を共有することを重視しました。在宅マツサージのマーケティング調査や老人会での営業活動、二〇〇〇年からは訪問介護をスタートし、断らない介護、二十四時間三六五対応のサービスを提供することで差別化を図りました。

二〇〇二年には障害者自立支援事業を開始し、男性ヘルパーの育成にも取り組

みます。また、コロナ禍では売上が三割減少するなど大きな影響を受けましたが、地域の保健所や行政と連携して対応し、地域社会からの信頼を確立することができました。

今後は、人口減少社会に対応するため、「総合生活支援事業」として、人間らしく生きるために必要なサービスを総合的に提供することを目指しています。具体的には、住宅改修や外国人介護士の支援など、地域のニーズに応じた事業展開を計画しています。

（カラオケ同友会 島尻裕巳）

250名が参加した基調講演



懇親会の様子





サンライズ支部主催

東海岸サンライズベルト構想学習会



講師の喜瀬 達也 氏

十一月四日、与那原町役場三階会議室にて、サンライズ支部主催、東海岸地域サンライズ推進協議会後援の東海岸サンライズベルト構想学習会が二十四名の参加で開催されました。講師は、沖縄県企画部企画調整課 副参事 喜瀬達也氏が務めました。

喜瀬氏は、冒頭、沖縄県の今後を考える上で東海岸のみが発展することはあり得ず、西海岸地域との連携を含め、世界、日本、沖縄と俯瞰して長期的で大きな視点が必要だと強調。その上で、「構想」の概要を話し、東海岸の地域の発展の可能性や「構想」実現のための展開を説明しました。

また、大型MICE施設の概要にも触れ、これまでの経緯と入札公告、特に宿泊施設などについての今後の課題を話しました。そして沖縄でも始まった人口減少や就業者数の減少にも触れ、沖縄関係税制の活用等で、企業における生産性の向上を期待しました。



全体風景

さらに、GW（ゲートウェイ）2050構想にも言及し、長期的な視野で成長産業の創出等で、県民所得を2.5倍にするブランドデザインの全体像を説明しました。

最後に、今回の学習会を含めて、県として、東海岸の各自治体との意見交換など取り組みを進めていくことへの協力依頼があり、参加者からの質疑・応答の時間があつて終了しました。

（カラオケ同友会 島尻裕巳）



北部支部 人を生かす学習会

企業実習を活用し、新たな人材を発掘

「働きたい」を「働ける」に変える人材との出会い方

十一月十四日、名護産業支援センターにて、沖縄県お仕事応援センター One × One（ワンバイワン）から、澤岬美幸所長含め四名の方に講師としてお越しいただき学習会を開催し、十七名が参加しました。

人を生かす委員会が企画した今回の学習会では、One × One（ワンバイワン）の取り組みや特徴などを解説していただき、雇用・就労支援に関する学びを深めました。

「働きたい」という意欲はあるが、障がい・経験の有無・家族環境などさまざまな状況で、就労に対し不安を抱えている、支援を必要としたりしている【希望者】と、【事業者】をマッチングするシステムについて解説いただきました。

まずは企業実習からスタートできるという点をはじめ、実際の就職についても、短時間OKだったり、特性にあった作業に特化してお願いできたり等、幅広い職種の経営者が「このシステムは、自社でも活用できるかも！」と感じることができました。

参加者からは具体的に「ハローワーク以外でこういった事業があったことが驚いた」「できる作業があるか、切り出す

発想で考えたい」「建設業でもつながることができそう」「意欲のある方が就労できるためのサポートは、自社でもできるかもしれないと気づいた」といった感想が出ました。

実際に、学習会に参加したあと、登録企業実習として十二月頭から、就職スタートした企業がありますが、One × One（ワンバイワン）のバックアップのもと、スムーズに進むことができたそうです。

同友会ならではの「人を生かす経営」の実践に繋がる、そんな手応えのあつた学習会となりました。（株）アイランドプロジェクト 新井章仁）



会場全体

第30期 同友会大学

第10講 うちなゝぬ肝心

―琉球の歴史と先人たちの生き方から学ぶ―

第11講 文化を基調とした地域おこし

―老いも若きも未来の宝―

第12講 沖縄政治と経済 ―統計と実態の乖離の検証―



講師の 崎原 真弓 氏

第10講

しました。さらにサンシンを手に取り、参加者全員で『ていんさぐぬ花』を合唱しました。

ていーだ観光(株)スーパーバスガイドの崎原真弓氏による講義が、平和記念資料館で開催され、「動かない観光バス」と題した講話ののち、平和の礎公園を巡りました。

まず、首里城を中心に息づいてきた先人たちの暮らしとして、神々や自然への畏敬から生まれた謙虚な生き方を紹介し、「首里城を訪れるときは、先人の思いに心を寄せ、そこに流れる『よい気』を感じてほしい」と語りました。

続いて話題は、日常に根づいた「うちなゝくとうば」へ。「誠そーちーねー、なんくるないさ」「いちやりばちよーでー」など、沖縄の心を表す言葉の意味を解説

第11講

講師 南島詩人 平田大一人氏

「感動産業」と独特な感性で思い描いている・人は「ありがとう」を言うとき自己肯定感が上がる・舞台演出において「舞台でなく人をつくる、人づくりをしない」とは平田氏の名言。

出演者の個性を生かしていく姿勢が印象的で、中高生で構成する現代版組踊「肝高の阿麻和利」における最後の舞台挨拶で、主演した高校生がお母さんを舞台に呼び感謝の気持ちを伝える映像を見ながら高校生にアドリブに歓喜する平田氏の姿は輝いていました。

地元小浜島にて結成されたKBG84(天国に一番近いアイドル)(小浜島・ばーちゃん・合唱団・結成当時二〇一五年 平均年齢八十四歳)の結成からの出来事を紹介。過疎化が進む小浜島で毎年寄りか元氣を取り戻し生き生きとしていると、地域の子供達も元氣に成るさまを紹介しました。合唱団に入会式にはウエディングドレスで記念写真が恒例、理由は戦争で失われた青春の思い出にウエディングドレスを着て記念写真を残す、粋なイベント参加者がいかに楽しくなるかが温かくなりました。感動産業で命の薬が本当に出来ると思いました。最後に平田氏のアカペラによるダイナミック琉球の独奏は参加者の心にのこる演奏でした。

(シンプロメンテ(株) 徳田恭紀)

第12講

講師 沖縄国際大学教授 前泊博盛氏

沖縄国際大学経済学部教授の前泊博盛氏による「沖縄政治と経済(統計と実態の乖離の検証)」の講義が開催されました。講義は直近の話題となっている高市総理の台湾有事発言に始まり、ロシアの脅威への対抗、周辺諸国に向けた政治の動きが日本を非戦国家から交戦国家の方向に向かっている事の懸念を語られました。

更には日本がアメリカから見捨てられる恐怖、アメリカの戦争に巻き込まれる恐怖という不安から、日本が自主防衛の為に防衛費を引き上げている状況や非核三原則の見直し議論が浮上している事など、前泊氏の最新統計資料や情報を元に解説されました。

グループ討論テーマでは、「日本は核を持つべきか、持たないべきか、それぞれの意見で考えて欲しい」との事になり、受講生にとって非常に難しい討論テーマと感じられたようです。

前泊氏はまとめとして、「日本と周辺諸国との安全保障問題は、あくまでも対話する事が大切」。外務省も経済人から貴重な情報を手入しているのだから、経済人もネットワークを構築し、周辺諸国の経済人と交流し対話の機会を増やしていく事が平和につながっていく行動になるのではないかと結びました。

(株)フナテック 富名腰一真

(南)アンテナ 石原地江



碧の会 経営学習会

企業変革支援プログラムで 変革への第一歩を踏み出す

十一月七日、沖縄産業支援センターにて、碧の会経営学習会（経営指針・企業変革支援プログラム）が開催され、十四名が参加しました。

今回の学習会は、多くの会員に経営指針作成講座の受講を促し、会員の三十％が企業変革支援プログラムVer.2に登録するという今年度の碧の会経営委員会の目標達成に向けた啓発を目的としました。プログラムを「難しい」と感じる会員に、実践者の事例を通じて「やってみたい」という強い動機付けを行うことをテーマとしました。



全員集合

研修では、実際に経営指針を作成し、変革プログラムを活用している二名の会員による体験報告と、参加者全員によるプログラムへの実践的な取り組みを中心に行いました。

まず、(株)TEAM沖縄 湧川洋邦社長が、経営指針作成講座受講のきっかけと魅力を紹介。講座を通じて実践してきた経営が「見える化」され、銀行評価や採用に活用できている実情を熱く語りました。

続いて、(有)大城水道工事社 玉城真由美社長が、企業変革支援プログラムの活用事例を紹介。当初は意識が低かったものの、設問への真摯な回答を通じて自社の課題が明確になり、会社発展に非常に有効なツールであると確信した経緯を述べました。

その後、参加者は「導入編」として、プログラムの設問に実際に回答する実践に取り組みました。この結果、学習会終了時点で碧の会のプログラム登録者は十四名となりました。

参加者からは「経営指針の具体的な活用法が伺えて勉強になった」「発表者全員が継続の重要性を話されていた」「湧川社長の熱い想いに感動した」といった声が寄せられ、変革への第一歩を踏み出す意欲を高める場となりました。（事務局）



経営指針はなぜ必要か？ 第61期に向けての作成講座学習会



講師の喜納朝勝氏



報告する高松茂夫氏

十一月四日の事前学習会「経営指針はなぜ必要か」を皮切りに、第六十期経営指針作成講座がスタートしました。今期の受講生は十三社十三名。自社の羅針盤づくりに挑みます。

事前学習会は、沖縄産業支援センターで二十八名の参加で開催。はじめに経営指針作成講座の概要について、上地裕介経営副委員長（三重金属工業(株)課長）から「経営のぶれない柱」を成文化するものであり指針書の枠組みや作成後、いかにPDCAを回し日々の経営に生かすことが大切か解説されました。続けて、第

二講で講師をつとめる喜納朝勝氏（(株)丸忠社長）から「中小企業における労使関係の見解と経営指針」をテーマに経営者の責任や考え方、社員との関係構築、最近の社会情勢について話されました。

実践報告では第五十九期修了の(株)挺（てこ）の高松茂夫社長が、講座を受けたことをきっかけにどう変わったかを発表しました。

高松氏はなんと同友会に参加し活かし方がわからないなか、先輩経営者のアドバイスで講座を受講。考え方や目標を対比させ、赤字を黒字化することが目標としていましたが、利益計画を明確化し黒字化へ。さらに経営理念も「社員の幸せ」を一番に考えるようになったことや、社内で経営方針・計画を共有し、社員の表情も明るくなってきたと、自身の変化が、社内の風通しを良くしていったと、受講したことでのメリットを語りました。受講料についても同友会外で受ける場合と比較するなど、会場からは驚嘆の声もありました。

六十一期の報告会は受講生以外の参加も可能ですので、次期受講をお考えの方は、ぜひe.d.o.yuでご案内を確認ください。（事務局）



第5回新人フォローアップ研修会 先輩社員3名による体験報告

十一月十七日、沖縄産業支援センターにて、第五回新人フォローアップ研修会が開催され、受講生九十六名を含む百三十八名が参加しました。今回の研修は、新人社員が抱える入社後の不安を解消し、今後の成長に繋げることを目的に、先輩社員三名による体験報告とグループ討論を中心に実施しました。

まず、(株)okicom 嘉手刈祐希さんは、新人社員時代の緊張を乗り越えるための積極的なコミュニケーションの重要性を強調。また、失敗経験から学んだ「どんなに忙しくても確認作業を徹底すること」の大切さを説き、些細なミスが大きな事故につながり得ることを改めて参加者に認識させました。仕事のやりがいについては、お客様からの感謝の言葉や、自身の成長を実感できた時だと述べ、モチベーションの維持方法を伝えました。

次に、(株)ワイズリゾート沖縄 佐久間ひなのさんは、「常に考えること」の重要性を力説。「考えるのをやめしまうと成長が止まる」という言葉は特に印象的で、状況に応じた柔軟な判断と、先を読んで行動する主体的な姿勢が、仕事の質を高めるとアドバイスしました。

そして、(株)近代美術 新名美彩子さんは、「今できること」を率先して行うことの大切さを報告。「何をしたらいいかわから



先輩3者による体験報告

ない」時こそ、電話対応や整理整頓など、誰でもできることを積極的に行うべきだと強調。さらに、仕事だけでなくプライベートルとのバランスを取ることも重要性にも触れ、「感謝されるためではなく、自分のために行動する」という言葉は、参加者の仕事への向き合い方を再考させるきっかけとなりました。

(事務局)



講師の玉城 次博氏

社長・社員共育塾 第4講 組織づくりの要は、社長と部下の 思いに寄り添い、理解すること

共有することで、組織全体との関係性を築いていったとのことでした。

特に印象的だったのは「会社には感謝しかない」という言葉。自分を採用し、育て、部長に任命してくれた、その期待に応えたいという熱い思いは、全ての受講生の胸を打ちました。

グループディスカッションを経た発表では、玉城氏の強い思いが「自分ごと」から「みんなのために」スライドしていったことが今の会社を支えているという意見が出たように、リーダーの思いが組織の未来を形づくることを、強く認識できた時間となりました。

(株)ハルモニア グランデ 小橋川牧

十一月十八日、沖縄産業支援センターにて第二十四期社長・社員共育塾第四講が開催され、受講生と付添者一〇九名が参加し、マエダ電気工事(株)工事部長・玉城次博氏を迎え、「ゼロからの挑戦！リーダーになりたい！中卒から部長になるまで、私の生き様とチームづくり」をテーマに講義が行われました。

玉城氏が語ったのは「仕事をする」と「そのものへの深い愛でした。高校中退から同社へ入社し、会社に貢献したい一心で最速で一級電気工事施工管理技士を取得。その後は、他社が敬遠する二十四時間対応の緊急業務を担当し、過酷ながら得るものの大きい日々を過ごしたといいます。

課長昇進の際には、信頼関係を築くために「自分以上に部下を思っ頑張って」と決めたことが転機に。部長に昇進した際には「社長の一歩の理解者になる」と心に決め、社長と部下の両方と



グループ討論



11月新会員オリエンテーション in 西原

十一月十九日、新会員オリエンテーションが、さわふじ未来ホール会議室（西原町）にて開催され、新会員六名を含む十七名が参加しました。

十一月の設営は、サンライズ支部が担当し、具志直人支部長の開会挨拶の後、「同友会の歴史と理念・目的」は宮城光秀代表理事（㈱大宮工機 社長）が、会員体験報告は、石川京美副支部長（㈱いしかわ文明堂 社長）が務めました。

宮城氏は、中小企業の役割や現状を説明しながら、同友会の理念を解説し、特に自主・民主との関りを強調しました。また、同友会との車の両輪である自社の取り組みを紹介し、同友会の学びからどう自社が変化したかを話しました。

石川氏は、自身の経営体験報告として、自身の経営者としての経緯や会社の動向を話し、その中で同友会での学び、特に多くの先輩経営者からの刺激を受け、困難を乗り越えてきたことを報告しました。

その後、新会員紹介・バッジ贈呈がおこなわれ、「同友会をどう活用するか」のミニグループ討論のあと宮城勇支部相談役の挨拶で閉会しました。

（カラオケ同友会 島尻裕巳）

新会員の皆さま（右から）

喜納 政也 氏（Okinawa Office ㈱ 社長）

仲松 浩慈 氏（代理参加・三善建設㈱）

福田 泰介 氏（㈱ Okivis 社長）

福本 考平 氏（㈱考福 社長）

山下 直彦 氏

（山下建築設計ディベロップメント 代表）

屋良 尚平 氏（(同) Up 70 代表社員）



学園祭の一コマ

「中小企業魅力発見フェア」での学生発表、そして学内合同企業説明会の開催など、教室



沖縄大学学祭で 会員企業紹介コーナー設置

暑さ残る十一月一日・二日の二日間、沖縄大学の学祭「沖大祭」が開催されました。メインステージでの催し、学生サークルによる出店などに、学生

に加え地域との交流の場にもなっています。ここに「みんなのカフェ」として当ゼミの活動紹介とともに、沖縄同友会の会員を中心に企業紹介・体験コーナーを設置し、㈱アイセック・ジャパン（うるま市）、㈱華風（那覇市）、㈱夢づくり沖縄（中城村）、そして一般社団法人コトサス（那覇市）の四社に出展頂きました。

沖縄大学と沖縄同友会は、二〇一六年に包括連携協力協定を締結し、「中小企業論」講義に毎年度約十名の企業家の講師派遣、インターシップ学生の受け入れ、七月の中小企業月間に開

催される

内・外で学生と企業家が交流し、考える場を頂いています。
ゼミ出店の「みんなのカフェ」では、「中小企業魅力発見フェア」に向けて企業研究した様子などをパネル展示し、併設した同友会会員企業の紹介・体験コーナーには、学生やその保護者、子育て世代が訪れ、各企業の事業に触れていました。「タイピング・コンテスト」（アイセック・ジャパン）では、流れる音声に沿ってキーボードのタイピング時間と正確さを競う体験。「いけばな体験」（華風）では、これから年末年始の時期を意識されたフラワーアレンジメントの手作り体験、「生成AI操作体験」（夢づくり沖縄）では、生成AIに質問・回答や生成画の作成体験、そして「投資って何？相談」（コトサス）では、投資についての様々な質問に答えられていました。学祭訪問者に、大学と企業・団体とのつながりの周知と、学生が講義のみならず、企業家とより近く接している様子に触れられる場となったと感じております。
この場を借り出展協力への感謝を申し上げます。
（沖縄大学教授 島袋隆志）

「健康なうちの一次予防」に 軸足を置くユニークな事業モデル



新崎 直和 氏

モデル事業がない中での挑戦。 産業保健×健康経営

理学療法士として約15年間、リハビリに従事し、「病気や障害が起きた後」にしか関われない事へのもどかしさを強く感じてきました。入院や障がい家族・社会に与える影響の大きさを目の当たりにし、「そもそもそうならないように支援したい」という思いが大きくなりました。「現役で働く世代」を守る仕組みが手薄だと感じ、「働く世代の健康づくり」をテーマに友人3名と起業しました。

モデル事業がない中、情熱だけで起業した感じです。経営の難しさを知らなかったことで逆

に踏み出すことができたと思います。サービスの説明と人脈構築に時間を要し、通帳の残高が減っていく中、精神的に厳しい時期もありました。事業内容は企業訪問しセミナー、グループ運動、体組成測定（筋肉量・脂肪量など）、データを用いた企業分析を軸に業種や企業の風土によって言葉遣い・資料構成・運動種目を企業の目標（意識変容、チームビルディング、個別課題解決など）に合わせてカスタマイズしていきます。

基本的には一年契約の伴走支援を行ない、新しい課題があれば更新提案をします。理想は企業の自立（運動・データ管理の自立化）。健康経営＝生産性の物語を企業へ提示し、経営者の健康投資の合理性を支える事ができると考えています。支部報告のアドバイスでお求めやすい価格と価値提供を創り年次契約の更新が増加。「次もお願いね」と言われる関係性を目指しています。

同友会で中小企業ニーズの発見!!

経営体験を聞く環境や経営者同士の助言・フォローがある安心感があり、人を軸に学ぶ場が



会員ホット情報

（今おすすめだよ!）

あることが魅力です。人を大事にする経営哲学が合っていると思います。同友会で学ぶ経営者は社員さんを大事にしていることがわかりました。しかし、健康への意識は高くない。中小企業内なら健康意識の低い人や将来リスクのある人に「元気な段階で」出迎え「従業員への思い」を重視する中小企業のほうが健康経営を受け入れやすいと思いました。

将来はどのような企業を目指していますか？

同友会で理念や経営計画書の重要性が理解できたので、これから経営指針作成講座を受講しようと思います。企業の健康志向や健康投資文化が広がれば、働き盛り層の健康寿命が伸び、医療費適正化につながります。今後は、この事業を全国やアジアに広げていきたいと思っています。

((同) Green Star OKINAWA
友寄利津子)



伊波 浦添てだこ支部幹事長 体験訪問にて

《会社概要》

(株) LIM Project

社長 新崎 直和 氏

〈浦添てだこ支部〉

所在地／北中城村ライカム554

ベアーズコート

ライカムグランデ601

TEL／090-6890-7266

事業内容／健康運動コンサルティング（労働災害、生活習慣病対策事業）

コースNo. 146

NEW

中小企業大学校

人吉校

企業経営・経営戦略

一”売れる”魅力的な店舗づくりのポイントを学ば

1日でわかる店舗づくり講座

【沖縄教室】

研修のねらい

消費者の多様化、原価高騰による価格競争など、変化や競争の激しい市場では、ニーズやトレンドを把握し、適切な商品を適切なタイミングで提供する必要があります。また、適切な商品構成や価格設定、売り場づくりを通じて、いかに自社の商品・サービスの魅力を消費者に訴求するかが重要となります。

この研修では、消費者ニーズやトレンドに対応するために必要な戦略を学ぶとともに、自社の商品・サービスを魅力的に消費者へ訴求する店舗づくりのポイントを学びます。

研修期間

2026年 【1日間 / 7時間】

2/19*

対象者

経営幹部・管理者・新任管理者
・その候補者

- ・店舗運営の基本を学びたい方
- ・店舗づくりや販促を見直したい方
- ・自社の商品、サービスを魅力的に訴求したい方

定員 20名

受講料 16,000円(税込)

会場

沖縄産業支援センター

沖縄県那覇市字小禄1831番地1



研修のポイント

- ☑ 店舗づくりの基本を学びます。
- ☑ 自社の商品、サービスを魅力的に訴求する店舗づくりのポイントを学びます。
- ☑ 受講後すぐ実践できる自社の店舗改善計画を作成します。

月日	時間	科目	内容
2/19 *	9:45- 10:00	オリエンテーション	
	10:00-11:00	店舗づくりとは	店舗づくりに必要な基礎知識を学びます。 ・売れないのはなぜか ・なぜ店舗づくりが重要なのか ・マーチャンダイジングとは
	11:00-12:30	ストアコンセプトの重要性	ストアコンセプトの重要性を学び、自社の店舗コンセプトを見直します。 ・ストアコンセプトとは ・ストアコンセプトの重要性 ・ミニ演習（ケーススタディ） ・自社のストアコンセプトを見直そう
	13:30-15:00	店舗施設の基本	店舗施設管理に必要な基礎知識を学びます。また、持参いただいた店舗外観・店内写真を見て、見直したストアコンセプトとの違いを確認します。 ・店舗の役割、機能とは ・店舗外観の基本 ・ストアデザインとストアコンセプト ・見直したストアコンセプトとのギャップを見てみよう
	15:00-17:00	店舗レイアウト設計のポイント	店舗レイアウトの基礎知識、作成プロセスを学びます。 ・売り場づくりの基本 ・店舗レイアウトの作成プロセス ・客動線調査の仕方 ・競合店調査
	17:00-18:00	自社の店舗改善計画の作成	これまで学んだことを振り返り、自社の店舗改善計画を作成します。また、効果測定の仕方について学びます。
	18:00-18:10	修了証書交付	

※カリキュラムは都合により変更する場合があります。予めご了承ください。

講師紹介(敬称略)



渡邊 [綾] 中小企業診断士事務所
代表

渡邊 綾子 (わたなべ あやこ)

株式会社マイカル（現イオン株式会社）入社。店舗（部門チーフ）経験後、本社マーケティング戦略室・新事業開発担当、商品戦略部・新業態開発担当、商品本部バイヤー・マーチャンダイザーを経て2004年に退社。

2005年に中小企業診断士登録。現在は、流通・サービス業に特化した情報システム企業で、調査分析・営業推進を担当。

Be a Great Small.
中小機構

独立行政法人 中小企業基盤整備機構
中小企業大学校 人吉校

〒868-0021 熊本県人吉市鬼木町梢山 1769-1
TEL: 0966-23-6800 (平日 9:00 ~ 17:30)
FAX: 0966-22-1456

お気軽にお問い合わせください。

人吉校

検索

